研究学校運営における調和と統一
―― その教育実践 ――

足利市立千歳小学校

まえがき

体力づくり研究学校の使命達成は本年度において一応その完成を期する意味でわれわれに課せられた最大の努力点であった。またこれを学級経営方針の中核にすえて具体的実現に力をいたしたことはすでに授業公開と研究協議会におけるささやかな発表によって周知の通りである。

しかし，体力づくりを主題とした研究学校となると，ともすれば体力のみに重点が志向され教育活動が一方に傾斜してバランスを失なうばかりでなく，そのために子どもひとりびとりに内蔵するもろもろの価値実現の可能性がこばまれることが懸念されたのである。よって過年度の学校経営全般にわたる反省と児童の実態は握に立脚して改善点をとり出し，一方において県教委，市教委の指導の重点に照らし学校教育目標達成をめざし，本校教育の重点を定め可及的に調和と統一のとれた研究学校の運営にあたるように努めてきたのである。

したがって，これから各節を追って述べようとするところのものは，体力づくり研究学校の命令達成をはかりながらいかにして教育活動の充実と調和的実践をはかり，こどもの個性の伸長と能力の開発にいどんでいったか，本校教育課程実施に関するおもな実践事例とその成果もしくは今後に残こされた問題点の生まな記録なのである。

その第一は，本校児童の短所である自主性の啓培のために児童会活動をいかに自発的に展開させたか。第二は児童指導の強化徹底である。ともすれば教科指導における知識偏重のテスト主義に傾きがちの教師の姿勢を児童指導の充実の方向に立ち返えさせることは人間形成の根本的問題だからである。具体的には，集団行動および集会活動の場である朝礼を朝会と呼び名を改め，その伝統的な形式を新たな角度から検討し，児童の計画と着想，創意を生かし児童たちが魅力と感動のもてる興味のある集会活動にするような新味あるくふうを加えたことなどである。

第三は，教育環境の構成，整備美化の実践である。本校は伝統的にその特色として，児童の行動的環境もしくは心理的生活空間を整えることについては，教師，児童，父母一体となって内外ともに全校的調和と統一を保たせることにつとめてきたのであるが，本年はとくに環境緑化計画とその実践，教室，廊下，昇降口，階段広場，玄関その他の空間の造形的表現活動による構成美化が実現され，いわゆるK，レビェンの公式 $B=f(P,E)$ を実証する結果が現われつつあるといえよう。

第四は，学校行事等の精選とくふうにより，児童が新鮮な感動を得る行事経験をさせるということである。児童は質的に密度の濃い新鮮な感銘を得る機会に多く恵まれることによって教育の効果はよりいっそうあげることができる確信が得られたのも本年の実践の特色である。第五には，高学年において「能力の遊んでいる状態」にあると思われる児童のためにその能力をフルに発揮させる教科担当方式を導入して，基礎的諸能力の向上をめざしたことである。最初の試みのためにまだまだくふう改善の余地は残こされているが，体力づくりの間げきを縫って校内現職教育として実施してきた作文指導，数学的考え方を育てる一単位時間の算数指導のくふうとともに，教科指導の平常時間の充実の実

態が子どもの声，父母の声からもうかがい知ることができるのである。

第六には，本校教師の研究主題へのアプローチと調和的かつ充実した学校運営への参加協力の熱気と教育者精神の実態をこの記録から除外するわけにはいかない。それは本校教職員の教育的士気（モラール）の測定結果とその若干の考察によって示されるであろう。

さて今ここに，２か年の研究学校運営に精魂を傾けた教職員諸君とその足跡をかえりみるとき，ある満足感が健やかに胸奥を満たすけれども，体力以外のこどもの諸能力は冒頭に述べたように各自各人の力に即して伸び育てられたかどうかの不安感も頭の一角をかすめるのである。研究学校として見せる意識のとりこになりはしなかったか，不得手の苦難をこえてひとり一研究の実践は果たして教育研究の現場的本道をたどることができたかどうか，自己内面の教育精神をてき出，分析してなおかつゆるがぬ満足感を保持し得たかどうか，まことに研究学校の道はきびしくけわしいものがあった。そうしてこどもの能力，意識，関心は各面にわたって明らかに変化してきていることに気づくが，それは果たして将来への望ましい生活創造力のバイタリテーとして定着したものになりつつあるのかどうか。

今後，静かにここに思いをいたして，もし仮りに学校経営の調和と統一か研究学校使命達成のためにそのバランスがくずれたとすればそのような落ちこぼれを是正し強化することこそ刻下の急務である。

これからは，学力に強い，しかもゆたかなうるおいとゆとりのある心情の持ち主でおちついた考え方のできる千歳の子どもの教育に希望をもって全職員の総力を結集してあたることによってその成果をあげたいと思っている。（漆原十月）

第一節　特別教育活動「ちとせ児童会」の活動

Ⅰ　は　じ　め　に

本校における特別教育活動は，昭和４０年を第１年目とする５カ年計画を一応の腹案として再出発したのである。その５カ年の具体目標のあらましは次のとおりである。

第１年　形式などより実践活動を体得させ

第２年　全体集会を焦点とした各部活動の充実
（昭４１年）

第３年　年間前期，後期総会および代表委員会の充実，各部，奉仕活動の二本立て運営＜ひとり
（昭４２年）ひとりの活動の重視＞

第４年　規約の本格的制定と自主，自発活動の活発化，予算活動の充実
（昭４３年）

第５年　総合的児童会活動

以上の具体案の第２年目，第３年目，第３年目が「体力づくり研究学校」指定下における児童会活動の重点目標であった。

2 昭和４１年度・昭和４２年度の具体目標

前述のような腹案のもとに，昭和４１年度の目標は

イ全校児童集会の開催（年１回）

ロ代表委員会の充実

ハ各部の計画によっての自主的，自発的活動

昭和４２年の目標は，４１年をさらに深めて

イ全校児童集会の児童の手による開催（年２回）

ロ代表委員会は毎週定期的に開く

ハ部と奉仕の二本立てとし，全児童（４年以上）が活発に目標をもって活動できる

ニ次年度の規約制定についての研究（代表委員会を中心として）

3 実　践　例

(1) 部活動と奉仕活動

紙面の都合で詳述できないが，今までの部活動を反省してみて，部に加入はしているが活動していなかった児童が実に多かったので昭和４２年度は，前後期交替制により，ひとりひとりの児童が目的をもって，十分活躍できるように左のような組織を実施したのである。

教師は，体力づくりに没頭していても，児童はこの組織に基づいて目ざましい活動を示したのである。その原因と考えられることは，各部奉仕活動とも，児童数が２５名を最多数とし，最少数は９名という部員構成であったと思う。

＜部・奉仕部の種類，人員，担当教師＞

この組織は，１クラス４０人として考えた

部活動			奉仕活動		
部名	人員	担当者	奉仕部名	人員	担当者
放送	2	正田			
整備	3	秋山	講堂地下	1	岩沢
			清掃用具	1	斎ユ
			工作室（農）	1	安藤
			図画室	1	高橋
			理科室（準）	1	西村
給食	2	丸山	給食	3	岡田
緑化	3	金子	教材園	3	長谷沼
			花壇	2	榊原
広報	2	大橋	掲示展示	1	鈴木
保健	2	山（近）	保健	1	山（近）
図書	3	松場	図書室	1	飯塚
体育	3	台	校庭	3	遠藤
			体育小屋	1	斎忠
よい子の像募金		代表委員会	委員		安・岡

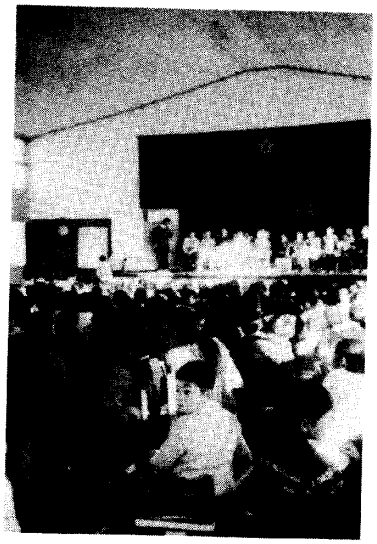
(2) 代表委員会

各部が活発に活動するだけでなく，児童会が学校あげての活動に発展する原動力の一つにこの代表委員会の活動があげられる。

本校が研究学校に指定されて以来，特に児童会活動で壁に打ちあたったことと言えば，教師側の時間の制約であった。これを打破しない限り活動は活発化しない。そこで苦肉の策として考え出したのが，代表委員会を給食の時間に会食しながら開くということであった。ふり返ってみて，毎週木曜日，それと，１日，１１日，２１日という１の日の定期会合は，この時間を活用したことにより，実によく実施されたのである。次に述べる総会も，児童会活動として行なった「よい子の像募金運動」も，各部，各奉仕の活動も，この代表委員会の充実により，さらに盛りあがりがみられたのである。

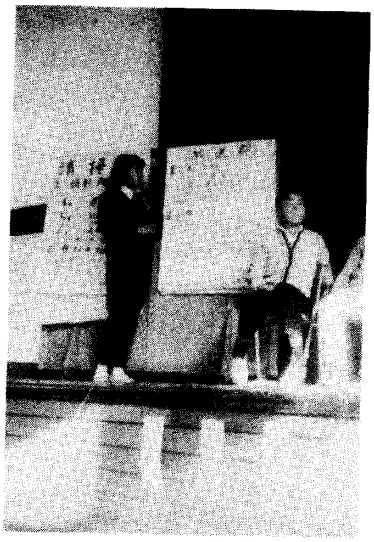
(3) 総　　会

昭和４１年度に実施した総会については，市立学校研究会特活研究部編「小学校特活（児童会活動）実態とその解明」P１４～１７に記載されているとおりであるが，昭和４２年度は，研究学校体制下において，６月１日第５，６校時（前期総会）１１月２７日（後期総会）の２回の実施をみた。事前準備はすべて各部で部長を中心として行ない，会の運営は，代表委員会が５回の会議を臨時に行ない実施したのである。



総　会　風　景

各　部　の　発　表



プログラムは次の表のとおりであるが，前期と後期は基本的なことでは同じにしたが変化をもたせるように努めた。総会も回を重ねるたびに，その運営の要領を覚え，実にたくみに運営されるようになって来た。

「前期　後期部活動を活発にし，ひとりひとりが活動し，年二回総会がひらけるのは，ちとせ児童会だけだ」という自信と誇りをもって，代表委員を中心として活動してきたのが，ことしのちとせ児童会である。

(4) ま　と　め

昭和４３年度は，５カ年計画の４年目にあたり，いよいよ，形式，内容共に充実してくる年を迎えることになる。現在の５年生は，６年生のやることをよく見習って，４２年度中に会長候補をきめておく等とはりきっている。

昭和４２年度　後期
ちとせ児童会全校児童会（総会）
・期日　昭和４２年１１月２７日　第5,6校時
・会場　千歳小講堂
・参加１～３年代表　４年～６年全員
＜プログラム＞
1. はじめのことば　副会長
2. 校歌斉唱　指揮伴奏　6年児童
3. 前会長あいさつ　前期会長
・新役員紹介
4. 新会長あいさつ
・児童会運営の方針発表
5. 各部，奉仕係の計画発表
6. 全体討議　議長　6年，5年児童
※　前期は学級単位で意見をまとめたが，後期フリートーキングで行なう
議題「学校にお金をもってきてよいか，わるいか」
提案者　おとしもの係（整備部）

9. レクリエーション
各学校５分の持時間で発表
※　合奏，寸劇，仮装，クイズ等多さいな催し
8. おわりのことば　副会長
9. 校長先生のおはなし　校　長
10. 講　評　教　頭

現在の６年生は，「ちとせ児童会」に満足して卒業していくとのこと。児童会とは楽しいものである。

（安藤重雄）

第二節　集団行動指導の一事例

1　はじめに

児童の学校生活の充実をはかり，より楽しいものにするために，児童指導の立場から，集団行動の指導強化を重点的に考えてみた。指導の一場面として，朝会の進め方をいっそう興味あるものにしようとの試みで実践してきたものである。もちろん，全職員共通理解のもとに実施してきたものである。

朝会といえば，教師が「話して聞かせる集会」という方法が多くとられてきた。そのため児童は，受け身になりがちであった。それらの反省に基づいて，児童が，「自分たちで進める集会」という児童を中心に自主的に活動できるものをと考えたのである。以下その概要を述べることにする。

2　本年度の目標

児童ひとりひとりが，より望ましい健全な性格を形成し，全人的人間形成をはかるため，集団行動の指導強化に努め，集団としての規律や態度を養成し，集団の中での必要な基本的行動様式の定着をはかることをめあてとした。

3 実践事例

毎週月曜日の全校朝会，木曜日の学年朝会は，限られた１５分という時間であるため，精選された内容で，しかも，十分児童が活動できる場であるようにとの方針で，全職員協議の上，計画を立てた。

(1) 全校朝会

（表 1）

毎月第１・第３・第５週		毎月第２・第４週	
1. 国旗掲揚（当番児童）	2分	1. 国旗掲揚（当番児童）	2分
2. あいさつ（週番職員）	1分	2. あいさつ（週番職員）	1分
3. 校長（教頭）先生の話	7分	3. わたしたちの時間（別項予定表）	7分
4. 今週の目標（当番児童）	2分	4. 今週の目標（当番児童）	2分
5. 今月の歌	3分	5. 今月の歌（別掲）	3分
6. 行　進（学年ごとに）		6. 行　進（学年ごとに）	

児童会部活動の組織によって編成された６年生全員を前期，後期に分け，前，後期とも６班編成（１班６～７名）とし，各班とも，職員の週番との打ち合わせ（前週土曜日）ののちそれぞれの役割りに従って進めてきた。これには事前の指導の手が十分加えられ，最上級生としての誇りと自信のある態度を示すことができた。表１で示すように児童自ら全校児童の前での国旗掲揚，今週の目標発表等を行ない，集団行動の徹底に近づけることに役だってきた。また，第２，第４週における「わたしたちの時間」では，表２および事例に示すように，年間予定にしたがって，各学級独自の活動状況等の発表によって，他学級への関心と刺激を高め，意欲をもって全校児童の前で発表しようとするふん囲気にまで高められた。

わたしたちの時間発表予定　（表 2）

4月24日	9月11日（4の2）	12月11日（3の2）
5月　8日（6の3）	25日（2の1）	25日（1の2）
22日（4の1）	10月　9日（5の3）	1月22日（4の3）
29日（2の2）	23日（3の3）	2月12日（2の3）
6月12日（5の2）	30日（1の1）	26日（1の3）
26日（3の1）	11月13日（山本クラス）	3月11日（6の1）
7月10日（6の2）	27日（5の1）	

また，毎月曜行なわれる「今月の歌」においては，朝のすがすがしい校庭においての全員による斉唱は，明るいなごやかなふん囲気をつくるという豊かな情操を養う機会にもなった。

・わたしたちの時間（実施例）

低学年　（２年，５月）

1. わたしたちの組の毎日のしごと（作文発表）
2. 水さいばいのかんさつ（観察日記）
3. 「しあわせの王子」（感想文朗読）

中学年　（4年，9月）

1.わたしたちのクラス（作文朗読）

2.歌　（合奏）

3.ぼくのゆめ（作文朗読）

高学年　（5年，11月）

1.わたしたちの組紹介（作文朗読）

2.「太郎（やぎ）」のせわ（飼育日誌）

3.死んでしまった太郎（作文朗読）

2～3の例に示すように，学級活動の状況を全校児童に紹介することによって，関心を高めることのみでなく，発表を聞き入る態度にも見るべき成果があがった。

・今月の歌　全児童が楽しく歌える曲目を選び音楽部児童を中心にしての斉唱，時には，合奏などを加えての時間とした。

今　月　の　歌　（表　3）

月	曲　目	月	曲　目
4月	校歌（斉唱）・春の小川（合奏）	1月	スキー（斉・合奏）
5月	こいのぼり（斉）・　〃（　〃　）	2月	線路は続くよ（斉）
6月	きらきら星（斉・輪）・たなばた（斉）	3月	山の子町の子（輪）
7月	夜があけた（輪）・校歌（斉）		
9月	希望のにじ（斉・合奏）		
10月	こだま（輪）		
11月	もみじ（斉・輪）		
12月	きらきら星（合奏）		

(2) 学　年　朝　会

毎月の目標，週目標，行事等の具体的な話を中心に学年に応じて実施してきた。形式にはしらず魅力ある学年朝会であるように，学年内の善行，各種大会参加のようすなどの意見を交換しあい，学級間の連帯感を高めることに役だてた。学年朝会には，あらかじめ予定されている場所に学年ごとに集合，整列し開始される。これを毎月場所を交替して変化をもたせた。

(3) 当　番　活　動

①で述べた部活動編成により毎日，朝，昼休み，放課後の3回，職員週番とともに校内を巡回し，その結果を週番日誌に記入するとともに，次週朝会時に発表し，週目標の徹底をはかってきた。

(4) 特に配慮した点

・朝会を進めるにあたって特に6年生全員に朝会（集団行動）の意義を十分自覚させ，積極的な活動を勧めた。

・できるだけ，児童の活動場面を多くし，関心を高めるよう努力した。

・「わたしたちの時間」では，事前に，担任教師の指導がなされたこと。

・学年に応じて，集団の中の自分の立場をはっきり自覚させるためのあらゆる機会をとらえての指導がなされた。

・朝会を，季節，天候，行事等に応じて，内容に変化をもたせること等に留意してきた。

4. 反　　省

児童は，常に生活に変化を求めている。学校生活の一場面である朝会を能率的に，しかも，力動感にあふれる楽しい時間であるという実感を味わわせてやりたいという方針にそって実施してきたが，おおむねこの成果が得られたように思われる。しかし，今後の課題として，集団行動のあらゆる場面において規律ある行動の習慣化をはかることに努めなければならないと思われる。

・学年朝会の進め方を改善すること

・個々の基本的行動様式の定着をはかるための具体策

（大橋　基）

第三節　環境整美

I　環境緑化について

1 はじめに

千歳小の校歌に

きれいな花が咲ききそう　庭に明るい声もわく　日ごとに木々がのびるように強く正しく育つのだ　ぼくもわたしも　千歳の子

と歌たわれているように，開校以来職員児童が一体となって千歳の緑をまもり育ててきたが，特に昭和42年は全国学校環境緑化コンクールに応募して，県緑化推進委員会より努力賞を受けたのである。

そこで教育環境の美化整備の中の計画ならびにその活動の実際について述べてみることにする。

2 本校教育目標と緑化との関係について

(1)本校教育目標に「勤労を愛好し尊重する態度を身につけた子どもに育てる」と示してあるが，この達成を図る具体策の1つとして試みた。

(2)本年度の緑化の活動計画はつぎのとおりである。

ア学校園教材園を整備する。

イアメリカシロヒトリの防除

ウ芝生の庭園の整備をする。

エ花いっぱい運動と緑化コンクール参加

(3)特別教育活動と緑化

ア児童会活動に緑化部を設け，緑化を推進させる。毎月第1木曜日の児童会の時間に活動している。

イ清掃美化の関心を高める。

(4)PTAと緑化

年２回のＰＴＡの奉仕作業をとおして，学校との協力体制を樹立させる。

3 本年度実施した緑化活動のおもな内容

４月 (1)緑化部の年間計画

(2)高学年全児童がひとり１本ずつの菊の移植

５月 (1)花の苗の植えつけ（サルビアなど）

(2)各学年の花だんのたねまき

(3)アメリカシロヒトリの防除計画

本校樹木の敵といわれているアメリカシロヒトリが５月末になると桜やプラタナスの木の葉にたまごを産みつける。その防除のためにクラスごとに札をかかげて，たまごをみつけたら，すぐにその枝葉をとって，焼き殺すようにしている。昼休み時間や放課後にその割り当てのところを見てまわり防除に努めている。

(4)球根ほり　（チューリップなど）

６月 (1)校内緑化週間

６月１日より１０日までに花だんの除草および草花の手入れ，さし木などを行なった。

(2)中庭の芝生の手入れ，害虫の防除

７月　教材園の手入れ，害虫防除

８月 (1)登校日に全校一斉に除草

(2)ＰＴＡ早期作業

９月 (1)校内秋のたねまき週間

花だんを整理して秋のたねまきを行なった。

(2)樹木の枝おろしの後始末

職員および児童により枝おろしの後始末を行ない，校庭に山になるほど積まれた。

１０月 (1)ＰＴＡ早期作業

(2)教育環境緑化で県より努力賞を受ける。花いっぱいコンクールにも参加

１１月　球根植え

１２月　菊の花などの花だん整理

２月 (1)水栽培コンクール

(2)中庭の観察用池の完成.

３月　卒業記念樹

本校では，毎年卒業生が記念樹を寄贈している。

4 緑化のはたす役割り

以上は本校の緑化活動のおもな内容であるが，教育的にはたす役割りは大きい。

即ち，栽培関係では，学習に必要な草花を栽培し，その除草などの世話をとおして観察し特に理科学習に役立っている。

また，児童会の緑化部が中心になり，球根植えやひとり１本の菊の移植などを行ない，それぞれの花を四季にさかせることに努力しており低学年の学習や環境美化のために大変役だっている。

つぎに，樹木関係では，千歳の緑の敵であるアメリカシロヒトリのたまごや青虫の駆除に積極的に協力し緑をまもるために努力している。そのおかげで一学期の終業式を照りつける炎天下をさけて，その緑の木かげで行なうことができるなど他校に見られない風景の１つである。また，四季とりどりの樹木のようすを写生するなど図工科の素材にもなっている。

そのほか，道徳では草花や樹木を保護する態度や，勤労を愛好し，奉仕の心を育てるなど，教育の実践の場となっている。

このように緑化活動をやることにより，樹木の枝を折ったり，花だんの花をいためたりするようすはみられなくなり，除草作業においてもいやがらずに行なっている。

これらは，緑化活動による１つの成果であり，人間形成のためにもたいせつであると思う。

（長谷沼玄信）

Ⅱ　〃校舎内外の造形表現による環境づくり〃

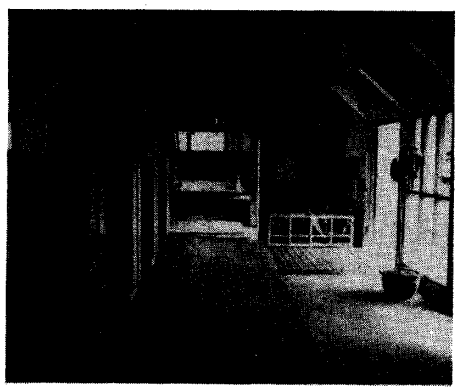
本校は創立以来「美くしい学校」を，その校風とし伝統として現在に至っている。しかし創立後十余年を経てその伝統をうけ継ぎ，守ることがいかに至難のことであるか，身にしみて痛感している現在である。そこで，よい伝統をうけ継ぎそれをより発展させるために，ここ数年来児童を中心とした教育的配慮による学校環境整備が考えられ実施されてきた。校舎内外の学習環境の整備と情操面の育成をねらった環境づくりがそれである。

それも，教師側，学校側の一方的な指導によって実施されたのではなく，児童の創造性豊かな心情と態度が，その推進力となったところに特徴がみられる。具体策には，〃児童の手で，児童の必要性から，児童の努力によって〃という基本的態度が貫かれているのである。

図工科における共同作品，卒業制作その他のものが，校舎内外の美くしさを統一させながら活用され，学習意欲の刺激となり，情操面の育成に役だっているのである。

写１　中央昇降口

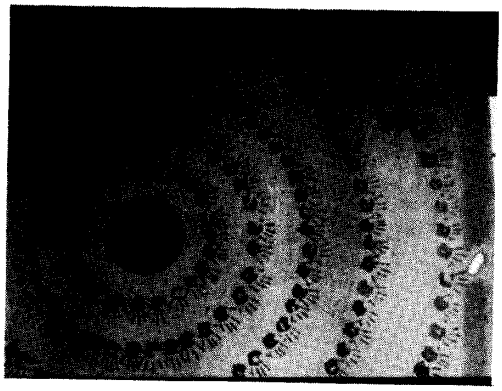
写２　中央昇降口



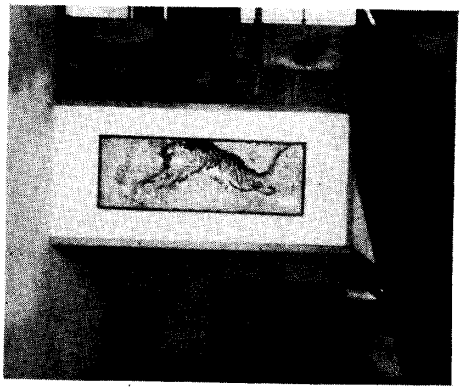
写１.２は今まで活用されなかった空間を活用してのものである。色彩と造形の美で統一され，児童

の活躍の場として生れ変ったのである。

写3　階段側面の壁

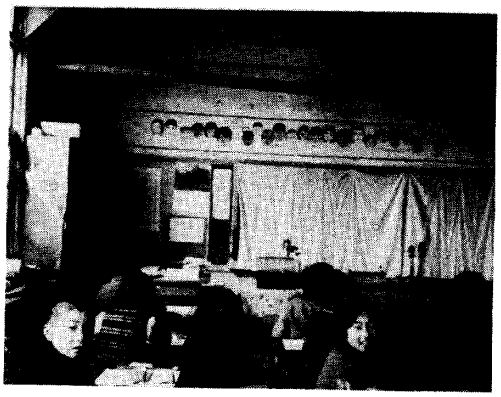


写4　階段正面の壁

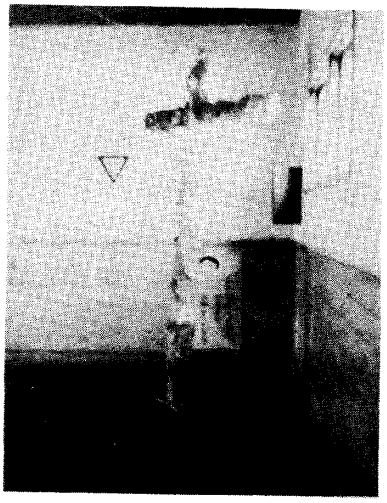


今まで気付かなかった空間を卒業制作展示で活用したもの。

写5　教室環境のくふう



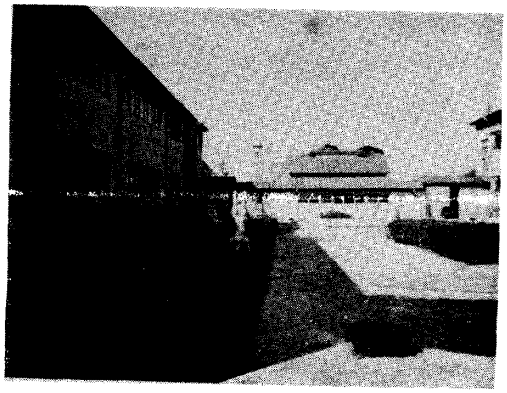
写6　廊下のすみの展示



色彩と形のバランス，それによって形成される最適な学習環境，その結果得られる安定した学習，学校生活のうちに占める大きな割合の教室環境にも児童の創造性が豊かに息づいているのである。

校庭中庭も活用すべく配慮されて環境づくりが実施されているのである。

（秋山慶吾，安藤重雄）



写7　中庭の造形

第四節　学校行事等のくふう

――新しい感動を与え，充実した生活をさせるために――

６年になって５月の修学旅行，最上級生になってつかの間，楽しみがひとつ終わってしまったさびしさがわく。そこで，いつも新しい感動を与え，学校生活にはりをもたせるために，いくつかの計画を立てた。

――唐　沢　キ　ャ　ン　プ――

期　日　　８月２２日（火）　２３日（水）　１泊２日

場　所　　奥唐沢キャンプ場

参加者　　６年　１２１名　（２１班編成）

経　費　　５５０円

テント　　２５張

指導者　　１１名

父母の協力者　　１７名

自家用車の提供　　延べ　６３台

　　往　　学校より佐野城北小まで

　　復　　唐沢山頂より学校まで

このキャンプは，前年の天体観測（合宿）のときより足がためをしておいた計画である。

1　キャンプ実施まで

(1)　キャンプ候補地の決定　（５月）

(2)　安蘇教育事務所へ申し込む

(3)　学校から歩くことを考えて，実際のコースを車で走り，キロ程・昼食・休憩地・水の補給地・服装等について予備調査をする。（３人）

　　朝の涼しいうちに出発すれば徒歩可能，体力づくりとしてもよい。

(4)　安蘇教育事務所の指導を受ける。（２人）

°教育キャンプ

°キャンプ活動実施計画とその運営

°佐野城東中・西中のキャンプのしおり

　　学校より歩くことは無理，疲れてテント設営ができない。佐野よりは可。

(5)　キャンプ地視察　　（４人）

°キャンプ地の環境

°水道と便所，その他の施設

°雨天の場合の避難所（金の丸ロッジ）

°青年の家利用（父母宿泊）の連絡

(6) 子ども会指導者研修会（小俣キャンプ場）

参　加　　7月7日・8日

（全日程1人・キャンプファイヤー4人）

(7) 実施計画（細案）の作成

(8) 学年部会に提案し，協力を要請する。

(9) テント設営とキャンプファイヤー視察

8月10日　　佐野西中　　（3人）

(10) 細案のねり直しと装備の点検

以上のような手順で計画を立てたが，台風接近のため計画を大幅に変更した。

第1日　自動車で赤見弁天へ，ハイク

昼食・ゲーム

自動車で帰校

夕食準備・夕食・あと片付け

夜のつどい（キャンプファイヤー）

第2日　起床・朝食準備・朝食

朝礼・体操・ゲーム

ハイキング（渡良瀬川）

すいか割り・帰校・解散

2 合宿を終えて

(1) 台風接近のため，計画を大幅に変更することを全員がわかってくれたが，無事に過ぎたので，何としてもあきらめきれない気持ちが残った。

(2) 責任者としては，最悪の事態を想定して判断をくだすことが必要である。

(3) 計画を立てるのがおそかった。8月10日ごろまでの実施でありたい。

(4) おちのないよう計画したが，隊装備に不備があった。

(5) 計画の段階・実施の段階とも，父母の献身的な協力があり，心の結びつきもさらに強くなった。

(6) せめて今夜，雨でも降ればよいと祈った。

――卒業記念品の埋蔵――

(1) 西暦2001年に出土し，31年後の再会を約束，それまでの生活を充実したものにする。

(2) 遠い未来への夢を結ばせる。

(3) 児童作品，自分の記念品，31年後のわたしの姿，その他。

――さよなら遠足――

目　的　○新鮮な感動を与えるとともに，小学校のよい思い出をつくる。

・早春の河原でのはんご炊飯

・野性味あふれた自由時間

○児童・父母・教師の和をより密にし，何でも話し合える場をつくる。

°体力づくりに役だて，心身ともに健全な児童を育てる。

期　日　　3月12日

場　所　　渡良瀬川奥戸河原

道のり　　片道　7Km　　徒歩　1時間30分

父母にも呼びかけて，できるだけ参加してもらい，児童とともに楽しい時を過ごす。

これらは，児童たちに夢と希望をもたせ，つねに新鮮な感動を与え，毎日毎日の生活を充実したものにさせてゆきたいと願う気持ちから生まれた計画であり，今後も，もっともっと計画してやりたいと思う。「すべて，子どもの幸福のために。」

（斎藤　忠治）

第五節　教科担当方式の実施とその反省

1　はじめに

技術革新や教育競争時代の教師の指導技術の不足がみられるようになってきた。とくに学年がすすむにつれて，教科の内容が高度になり，ひとりの教師が全教科を担当することは至難の業といえる。

また，学校経営の立場からひとりの教師が全教科を担当するということは，指導技術の優劣があらわれ，児童におよぼす影響はきわめて大きい。

なお，学級王国の弊害もあなどり難いものがある。

2　ねらい

学校経営の立場から指導組織の近代化，合理化を推進させる意味で，学年・上学年のブロック共同責任体制を確立し，専門職としての教師の人間性と技術性のかたよりを助け合うことによって，より高度な教育効率を期待するために本方式を実施した。

3　教科担当方式の事例

実施にあたっては，今までの学級担任制の良さを残こしつつ学年を担当する各教師が比較的得意とする教科を持って，児童の教科指導を互に協力し合って指導するという原則をうち立てた。そして，高い指導技術を必要とする音楽，図工，家庭，理科，社会，国語の6教科とし，算数をはじめその他の教科はクラス担任者が受持つことにした。しかも，あくまで小学校であるために学級づくり，児童指導の基盤の上に立脚した学習指導でなければならないため，下記のごとく自分の担任クラスの持ち時数を60％をくだらないようにした。とくに5年生は編成替え直後であるためにその原則を守ろうとしたが，時間割編成困難なクラスもあった。

教科担当方式の教科時数一覧（５年・６年）

クラス＼教科	国	社	算	理	音	図	家	体	道	学	学級担任担当	教科担当者時数	教科担当者
６の１（安藤）	7	④	⑥	4	2	②	2	③	①	①	⑰	１５	大橋，斎藤，正田，鈴木
６の２（斎藤）	7	4	⑥	④	2	2	2	③	①	①	⑮	１７	大橋，岡田，正田，安藤，西村
６の３（大橋）	⑦	4	⑥	4	2	2	2	③	①	①	⑱	１４	岡田，斎藤，正田，安藤，遠藤
５の１（秋山）	7	④	⑥	④	2	2	2	③	①	①	⑲	１３	岩沢，正田，安藤，金子
５の２（岡田）	7	④	⑥	4	2	2	2	③	①	①	⑮	１７	岩沢，斎藤，正田，安藤，丸山
５の３（岩沢）	⑦	4	⑥	4	2	2	2	③	①	①	⑱	１４	秋山，丸山，正田，安藤，斎藤

4　教担方式実施の反省と今後の課題

(1)　児童の立場から

教担方式についての実態調査表　（５年生１０７名）

①まじめな態度で学習するようになった。	なった	26%
	変らない	72%
	悪くなった	2%
②勉強をいっしょうけんめいやろうと思うようになったか。	なった	○50%
	変らない	49%
	悪くなった	1%
③よくわかるまで教えてもらえるか	もらえる	○66%
	変らない	30%
	もらえない	4%
④家庭学習（宿題，自主学習）をするようになったか	なった	○53%
	変らない	42%
	しなくなった	5%
⑤くわしく深くおしえてもらえたか	もらえた	○58%
	変らない	35%
	もらえない	△18%
	もらえた	47%
	変らない	35%
	もらえない	△18%
⑦受もちの先生と同じように先生を信用できるか	できる	○78%
	変らない	14%
	できない	△8%
⑧だれにでも同じようにわかるまでおしえてくれたか	くれた	44%
	変らない	46%
	くれない	△6%
⑨受け持ちの先生と同じように，困ったことや，うれしいことがいえるか	いえる	46%
	変らない	35%
	いえない	△19%
⑩教科担当方式は，来年もつづけた方がよいか	よい	○78%
	やめた方がよい	△22%
⑪自分でよくできるようになったと思う教科は何ですか	国 31　社 35	
	算 49　理 47	
	図 51　音 27	
	家 39	
⑫生活態度やしつけの面で変化があったか	あった	39%
	変らない	61%

○　このましい　　△　問題がある

ア　問①～⑫の変らないが７１％・６１％ある。これは教担方式になっても従来の学級担任制でも，

児童の学習態度，生活の態度は変らないといえる。逆にいえば，教担方式をとっても，生活の面は悪くはならないといえる。

ロ　問③，⑤については，教担方式のねらいそのものである。６６％，５８％の高い反応を示しているのは，その成果が十分期待できるものと確信している。

しかも，教担方式の教科担当者を自分のクラスの担任の先生と同様に信頼できるという児童が７８％もあり，来年もおよそ８０％のものが教担方式を希望している。

(2)　教師の立場から

イ　学級担任制のときには，ルーズにしていてもわからなかった。ところが教担方式になってからはそれは通用しない。今後は時間として効力を発揮しなければならないので，各人が，授業の初めに学習のねらいを徹底させることに留意し授業自身はち密になり，もちろん目標から脱線することは許されなくなった。

ロ　小学校の教師はいつの間にか年輪がかさむに比例して学級王国をきずいているものである。そして自分のクラスの児童の全責任を負っていて，他の教師の干渉を許さないことが多い。

ところが，教担方式になってから，学年内や5,6年ブロックの共同責任体制意識が強くなり，学級の閉鎖性から開放され，競争意識もなくなり，極めて協調的になってきた。さらに発展して，学級づくり，児童指導，特活，学校行事等などにおよんだ。

しかも形式的な学年会議やブロック打ちあわせでなく，互いのアイデアを結集した教育活動が意図的・能率的に進められるようになってきた。それこそ，従来の学年経営，学級経営という発想を起えて，新しい時代に即応した経営がなされるようになった。

ハ　実態調査表の問⑦に学級担任と同じ様に教担の先生を信頼するものが７８％もあるが，逆に問⑨では，困ったことが教担の教師に打ちあけられないのはなぜか。これこそ教担方式の泣きどころである。

また，問⑤⑥に「深くおしえてもらえない」「楽しく教えてもらえない」がそれぞれ１８％ある。これは，児童理解の問題だ，ひとりひとりの児童に応じた指導を大切にしていくという面でさらに研究をすべきだ。

ニ　１年間の実践でその効果を論ずることは差控えたいが，調査表に示された問⑪を見ると，図工理科，家庭，社会等の順になっている。理科は神奈川県の教担制の実験でもきわめて効果があったといわれている。

(3)　今後の課題

イ　なんといっても児童理解の面が問題である。これは，従来の指導過程や指導の考え方を大幅に改造して，個別の学習の機会を多く取り込んで，余って浮いている時間を子どもひとりひとりの助言なり激励なりに振り向けていく授業研究が必要である。

さらに，教育相談なども大きな役割を果すことになろう。

ロ　教担方式になってから，休み時間に熱心に児童の日記を見ている教師がいる。やはり自分のクラスに出る時数が制限されているので不安になるのだろうか。学級担任制のよさはこの辺に内在しているのかも知れない。学級担任制のよさをどのように残して，教担方式を採用するか研究を

進めなければならない。

ハ　学年主任の役割りも従来の学級担任制のごとく，単なる伝達，調整的な立場ではすまされない。リーダーシップを積極的にとり，単なる思いつきや，自分のクラスのことなどにとらわれず，広い視野と洞察の上に立って調和のある学年・ブロックの経営を志ざさなければならない。

ニ　ＰＴＡの学年部会のもち方も変わってくる。父母に対する教育相談の機会をクラス担任者と，教担者との両者にわたるようにする必要がある。　（岡田　行夫）

第六節　教職員モラール調査

1　モラールの定義

この学校の教員のひとりであることに満足と誇りとをもって結束し，教育という共通目的の達成に向かって積極的に努力しようとする感情ないし態度

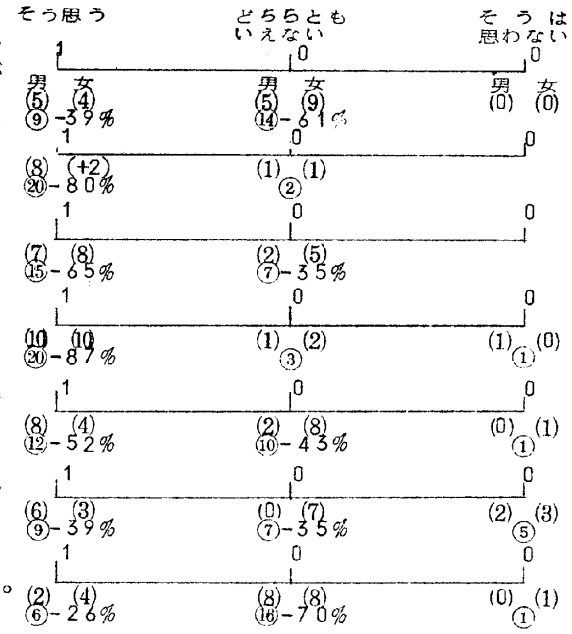
2　試案「教職員モラールの個人測定と集団推測」の実施とその結果

実施者（千歳小　教職員２３名　内訳　校長・作業員・調理員を除く（男１０，女１３）

実施年月日　　昭和４２年１２月２６日

(1)　個人測定法

学校の管理運営や，職場の人間関係に関連する事項について，あなたの学校の現状を考えた場合，あなた自身のお考えをお示しください。　（項目右らんの番号に一つ○をしてください）



※　パーセント　56.5%（68.5%　49.4%）　37%（27%　44%）　4.9%
男　女

(2) 集団推測法

この学校の全職員について，以下の諸事項にお答えください。

（右らんの番号に一つ○をして下さい。）

	多い やや多い	どちらとも いえない	やや少ない 少ない
	2	1	0
ア　この学校で働くことを喜んでいる教員は	男 女 (4) (6) ⑩－43％	男 女 (6) (7) ⑬－57％	男 女 (0) (0)
イ　この学校で同僚とよく協同して働いている教員は	(8) (6) ⑭－61％	(2) (6) ⑧－35％	(0) (1) ①
ウ　この学校の教育計画に満足している教員は	(8) (6) ⑩－43％	(2) (6) ⑫－52％	(0) (1)
エ　この学校の校長の判断を信頼する教員は	(7) (7) ⑭－61％	(3) (6) ⑨－39％	

52.1％（60％　46.1％）　45.6％（37.5％　51.9％）

(3) 考　　察

・個人測定法による平均得点 千歳小3.90／全国2.71　集団推測法による平均得点 千歳小4.20／全国4.82

・本校のモラールの傾向　男が高く　女は中間調

・とくに個人測定のオ，カ，集団推測ア，ウの項目に問題点あり，追跡の要あり。

あ　と　が　き

以上の実践記録は，他校においてもより以上にりっぱな計画実践指導により効果があげられているであろうが，まえがきにものべられているとおり，本校が体力づくりを中核として教育経営に当たり特に改善とくふうを要望されて実践し，落ちくぼみのない教育活動をおし進めたいくつかの実践事例であり，「調和的かつ充実した学校運営の推進を図り，その実践に努める」という，市・県教委の学校経営指導の重点項目の精神の具現化に全職員がとりくんだものである。

教育活動全分野に見落しのない指導は至難なことではあるが，教職員うって一丸となって人間性の向上と児童個々人の能力の開発を学校長の教育方針として受け止め，具体化をはかってきた。調和のとれた学校運営がなされ，児童のもつ自ら伸びる力を大いに伸ばししかも児童の内面自発性を期待し，日日の生活がより以上に充実感に満たされ，6か年間の小学校教育の目的達成をめざして，計画実践，評価・改善のあとを，くりかえし反省し，また自己反省のかてとすることが教師としての個人成長にもつながることである。

ちなみに，本校の学校評価の結果を考察してみると，反省のために記録し，検討を加え研究の組織作りをしてその時間を生み出し，計画的に全校討議の日を設け，授業に役だつ資料を収集し整備して手軽に使用できるくふうをし，施設充実と同時に機材の使用技術の向上を図ることが急務となっている。

もとより改善には全職員が学校というものの内容を理解し，評価の観点を熟知して，日々研究と研修につとめなければならない。

新しい学校のふん囲気づくり，あるいは習慣化行動様式の定着のための指導にくふうをこらし，児童が体験することによって新たな感動をおぼえ，やがて家庭人となり，社会人として国民として多くの人々が期待する人間形成に全力を傾注し，満足する教師たらんためには，今後さらに大きな課題は残されている。

感　想

研究学校運営における調和と統一　　―その教育実践―

体力づくりの研究学校としての使命達成を最大の努力点としながら，こどもひとりひとりの個性の伸長と能力の開発をめざし，教育活動が一方に偏することなく，調和と統一のある学校運営を実践されたことに敬意を表したい。

児童の実態をふまえ，長期計画に基づいた教育活動であり，改善のための教師の熱意と創意くふうがじゅうぶん発揮されている点は大いに参考にしたいものである。